

報告 病理診断支援について

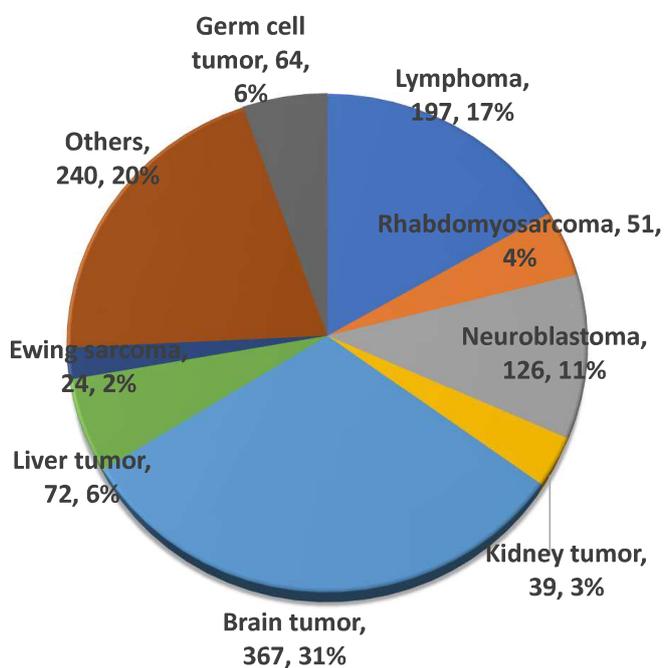
2024.7.9. 小児がん拠点病院連絡協議会

国立成育医療研究センター病理診断部

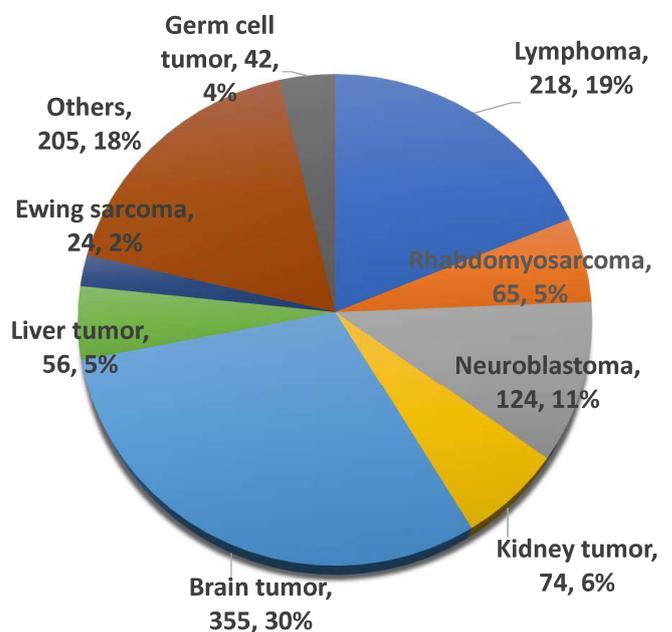
義岡 孝子

腫瘍グループ別 中央病理診断症例数

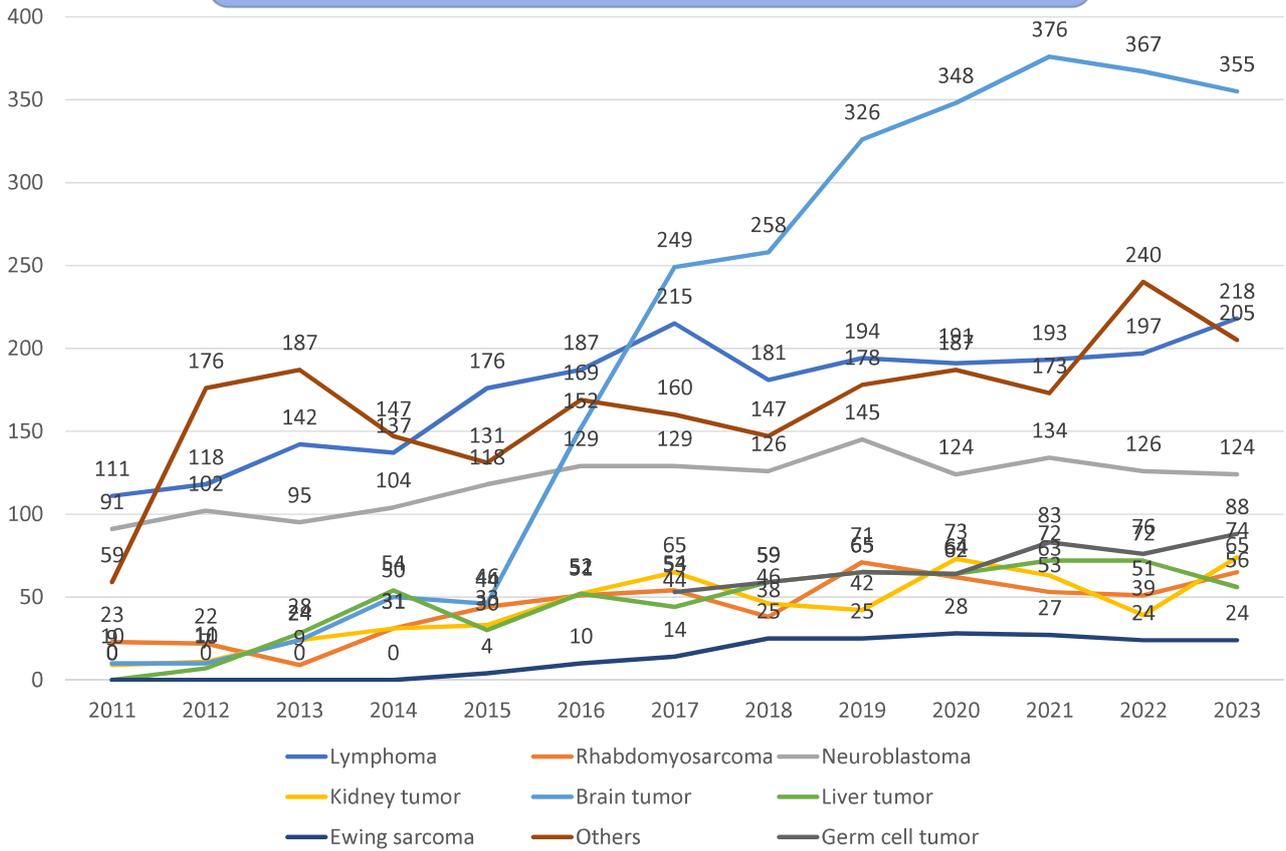
1,192 cases, 2022



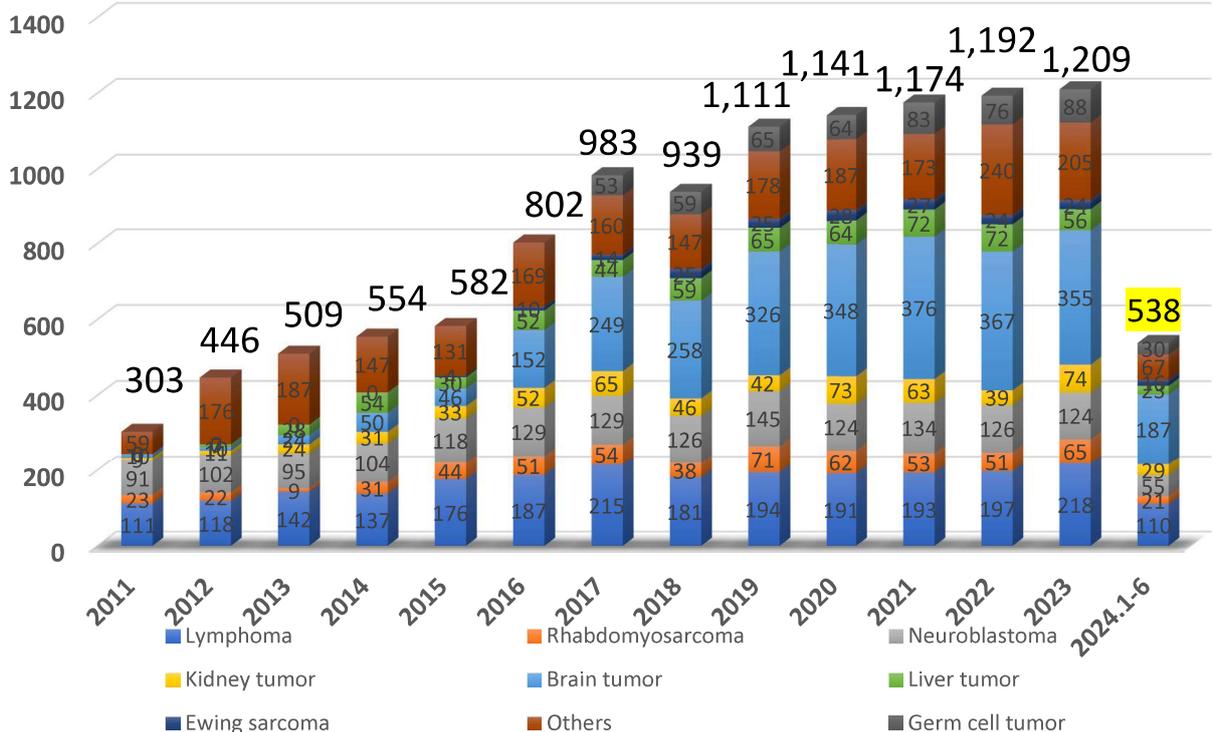
1209 cases, 2023



腫瘍グループ別症例数推移



中央病理診断症例数の推移



脳腫瘍中央病理診断における DNAメチル化解析の実施状況

- 2022年1月～12月
凍結検体より 30例
FFPEより 4例
- 2023年1月～12月
凍結検体より 46例
FFPEより 5例

*基本的に凍結検体での検索であるが、検体量が不十分な場合やサンプリングエラーが考えられる場合、FFPEの提出をお願いしている。

中央病理診断のあり方について —研究の報告

- 厚生労働省 がん政策研究事業
小児がんの病理診断の質を高める体制の確立
に資する研究（22EA0701）

小児がんの統合病理診断体制に関する研究

- 小児腫瘍診断のてびきの完成・公開
- アンケート調査
- 中央病理診断体制についての提言のまとめ

免疫染色・RT-PCR・FISH にかかる経費（成育のみ）

腫瘍グループ	1件あたり（円）
リンパ腫	31,672
横紋筋肉腫	57,176
神経芽腫	10,196
腎腫瘍	15,842
脳腫瘍	24,801
肝腫瘍	501
Ewing肉腫	42,871
胚細胞腫瘍	11,596
骨軟部腫瘍 他	10,480

免疫染色：4000円、FISH/RT-PCR: 20000円

アンケート調査のお願い

・対象

小児がん拠点病院・連携病院の臨床医および病理医

Google form のリンク2通（臨床用・病理用）を発信予定です

- ・10分程度で回答可能な内容
- ・自由記載欄には忌憚のない意見をお願いします。
- ・がんゲノムパネル検査に関する内容を含む。